

医療・IT融合加速

未来を築く 地域発イノベーション



石原 康行氏
関西でスマートヘルスケア市場

中小・ベンチャー・中小政策

スマートヘルスケアはITや組込機器などの融合で、介護・福祉や健康増進をサポートする産業。医療費や介護福祉費が増大する中、予防管理の健康増進産業として注目されている。近畿経済産業局は2014年度から関西の強みを生かした同産業の創出事業に乗り出した。医療・介護従事者と組込機器やIT事業者の交流を促し、有望事業の発掘やアピール、販売普及を支援する。

近畿経産局

政府は世界の国で日本が一番上手にITを活用する「世界最先端IT国家創造宣言」を閣議決定した。また経済産業省はITと製造業(ロボットや自動車)、サービス業(医療、ヘルスケア)の融合で価値創造産業の創出を目指している。

産業創出へ有望企業発掘

政府は世界の国で日本が一番上手にITを活用する「世界最先端IT国家創造宣言」を閣議決定した。また経済産業省はITと製造業(ロボットや自動車)、サービス業(医療、ヘルスケア)の融合で価値創造産業の創出を目指している。



11月に近畿経産局とリそなグループで共同開催した健康ビジネスフェア

事例

11月に近畿経産局とリそなグループで共同開催した健康ビジネスフェア

健康ビジネス展示会 販路開拓や現場の声収集

11月に健康管理や介護支援、リハビリ支援のスマートヘルスケア関連製品を体験

品が一筆に集まった健康ビジネス展示会(近畿経産局とリそなグループ主催)が開催された。身ごなしロボット(福井市)はタブレット端末(携帯型情報端末)を使い、現場で筋肉の動きが簡単に分かるセンサーを福井大学と共同開発した。岡本研至社長は「トレーニングの質が向上でき、体の上手な使い方を確認するツールになる」と強調する。医療関連システムなど

「スマートヘルスケア産業創出支援の狙いは、「日本再興戦略」にある(ICT)の活用が不可欠。また関西はセンサやロボット、組込産業が集積し、健康増進のサポート産業を育成できる土壌がある」

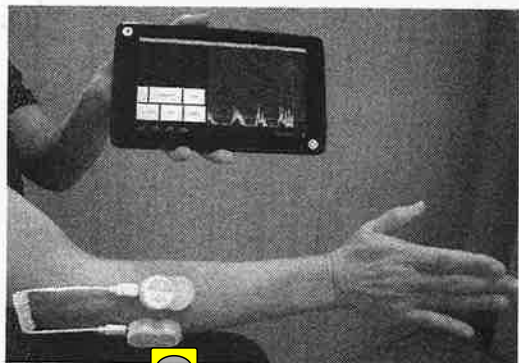
「政府は健康予防・生かす産業などの強みを生かせることができる。将来の期待は。」

関西の強み生かし拡大

「10月のフォーラムでスマートヘルスケア産業の理解を深めてもらい、参入を促す必要がある」

石原 康行氏

「10月のフォーラムでスマートヘルスケア産業の理解を深めてもらい、参入を促す必要がある」



身ごなしロボット「マッスルライプ」

活用や計測機器の産業団体、金融機関、産業支援機関などと連携を検討し、事業化を進める。

「当局と協力先の関西情報センターで個別相談に応じる。関西の強みのセンシング計画など医療・介護現場の交流を強化し製品化につなげる。コーデイナーを活用し、商品企画や販売・普及を支援していきたい」

各製品は手書きなどアナログ作業の多い医療や介護現場で、デジタル技術を使い便利にするものが目立つ。展示会場で初めて製品を見た介護従事者が早速購入したり、コンパクト化の助言をしたりするなど、販路開拓や製品改良のきっかけの場となっている。